校友会って何??

小野勝久現(第３代)校友会会長に聞きました

元日立市教育委員会委員長
現明秀学園理事長として活躍中

校友会とは？

会員相互の団結をはかり、併せて母校の健全な発展に寄与することを目的とし、これに必要なことを行う組織。

みんなで多賀中を応援しよう！支えていこう！っていう組織ですね。

いつできたの？

昭和54年、同窓生の間で同窓会設立の気運が盛り上がり、初代会長森秀男さんら有志を中心に準備会を立ち上げ、翌55年３月、卒業年度別の代表者を理事に設立総会を開催、発足。

会員は？

多賀中卒業生を正会員、在校生を準会員、多賀中の職員・前職員を客員、その他賛助会員・名誉会員で構成。

多賀中に関わった人はＰＴＡも含め、誰もが会員資格を持っている、ってことですね。

会費は？

毎年、卒業する生徒から終身会費として、一人千円。その他、寄付金など。

どんな活動をしているの？

毎年卒業生に卒業証書入れの「筒」を寄贈。
現在は、手をつなぐ親の会会報補助（5千円）と、生徒活動後援会(10万円)の活動を支援。

あの筒は校友会からいただいていたんだ…
卒業式の前日に入会式がありました。

校友会への連絡をするには？

多賀中に事務局があります。お気軽にご連絡下さい。
TEL ０２９４（３６）０５３３

『かしわ』を情報交換の場にしたいと考えます。同窓会情報・近況報告・地域情報・多賀中応援等々、温かいメッセージをぜひお寄せ下さい。『かしわ』への、ご意見・ご要望・ご叱正をお待ちしています。

校友会のホームページを立ち上げました。こちらもご覧下さい。 http://tagatyukouyukai.web.fc2.com/

次回の総会は？

２年に一度、校友会総会が開かれます。懐かし母校をお訪ね下さい。

日時　H.21. 7. 5（日）10：00～11：00
場所　多賀中学校会議室

同窓生の今

役者として、ドラマ・ＣＭ・映画等で活躍中。
４月には主演舞台「夜は短し歩けよ乙女」が、東京グローブ座で始まる。

輝く人達の通り道に！

平成12年度（第54回）卒業
渡部豪太

ぼくは、中学二年の時に転入してきました。初めての学校は、まるで太陽のように明るく眩しいものでした。その眩しさの正体は、生徒一人一人の輝きでした。みんなは、ぼくをすぐに受け入れてくれ、その中で一生涯の宝物である友達を作ることになりました。

ここでは、それぞれが楽しいこと・面白いもの・新しいものを次々に見つけ、みんなで共有し合っていました。この時、今の趣味であるスケートボードや音楽を知る事ができました。今では、無くてはならないものになっています。

ぼくは、現在東京で役者の仕事をさせて頂くことで日々勉強をしています。この仕事は、沢山の人達の沢山の考えが交わり合い、時にぶつかり合いながら、日々良い作品を生み出していきます。落ち込み、疲れ、苦しい時もあります。本当に辛い時支えてくれているのは、周りにいてくれる友達の存在です。皆と作り上げた思い出やこれから起こっていく楽しいことを思うと、一人ではないと再確認し、また笑うことができます。

ぼくは、今まで出会った人達から得た沢山の事でできています。この感謝の心を知ることができたのも中学時代に出会った友達や先生方のお陰です。本当にありがとうございました。これからも、多賀中学校が、沢山の輝く人達の人生の通り道でありますように。

同窓会報告

４年後を楽しみに！

昭和42年度　第４回同窓会を終えて
同窓会会長　関利明

司会者の乾杯発声が出るまでは、落ち着きを取り戻せない自分に気づいていた。同窓会が始まった。進行はスムーズに予定通り順調だった。

見えられた五人の恩師はとてもご壮健であられた。先生方より沢山『後期高齢者』という言葉が使われていた。恩師を囲み過ごし、良き時代の思い出を語りながら、お互いの人生に励みと慰めが得られた。今回はサプライズなショータイムが入り、会場は異様な盛り上がりを見せ興奮状態になった。自慢話・こぼれ話で大いに語り楽しんだ有意義なアッという間の二時間であった。

ここまでできたのも、クラス代表の幹事の皆様と正確な名簿のおかげです。本当にありがとうございました。また、四年後60歳で迎える第五回同窓会が待ち遠しく思えてならない。

３年当時９クラス　当日参加者80人（含先生）H.20.7.20

編集後記

今回、初めて、校友会機関紙を発行することとなりました。

作業が進むにつれ、多賀中の歴史の重み、ＯＢ方の各方面でのご活躍・偉大さが『ひしひし』と感じられ、心豊かな気持ちになりました。編集委員一同、和気あいあい、楽しく『心のふれ合い』ができたことに感謝します。お忙しい中、原稿をお寄せ頂きました皆様に感謝申し上げます。

平成22年は、校友会発足30周年になります。これを記念して次号を発行したいものです。

編集委員長
西野幹雄

小野会長の文科大臣賞を祝う
編集委員一同